精神科看護職のクリニカルラダー（日精看版ラダー）

到達段階			レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
到達目標			●基本的な看護手順に従い、必要に応じて助言を得ながら、安全に看護を実践できる。 ●部署のマニュアルを活用し、看護を実践できる。 ●自己の教育的課題を発見し、主体的に学習できる。 ●社会人として、組織の一員であることを理解し、職場のメンバーとしての役割を全うできる。	●根拠のある判断、看護実践ができる。 ●対象者の希望をふまえ、看護計画に基づいて、自立して看護を実践できる。 ●自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開することができる。 ●判断に迷うときは、自ら他者に相談し、メンバーシップを発揮して看護を展開できる。 ●対象者とのかかわりのなかで自身の課題を明らかにすることができる。 ●所属施設の理念や方針を理解し、組織の一員として、自覚ある行動ができる。 ●コスト意識を持つことができる。	●対象者の個別性を理解し、状況に応じた看護を実践できる。 ●自身の課題を克服しようと取り組み、自身の強み、弱みを意識して、自身の持ち味を活かした看護ができる。 ●自己の教育活動に積極的に取り組むことができ、指導的役割も意識することができる。 ●組織の一員として、効果的にかつ効率的に業務を行えるよう、メンバーや多職種と協働できる。 ●所属施設や部署の目標達成に取り組むことができる。	●全人的に対象者をとらえ、幅広い視野と予測的な判断をもって、対象者中心の看護を実践できる。 ●対象者の満足度を高めるために、チーム全体の動きを把握し、リーダーシップを発揮した行動ができる。 ●医療全体を理解するために、広い視野で必要な知識を獲得できる。 ●精神科医療の現状をふまえて、自分の役割を理解して、業務が効果的かつ経済的に効率よく行えるようスタッフに指導的にかかわることができる。 ●所属施設や部署の理念と方針をふまえて自己の役割を考え、主体的に行動できる。	●より複雑で対応困難な状況において、最良な手段を選択し、対象者の満足度、QOLを高められるよう高度な看護を実践できる。 ●役割モデルを意識しながら指導にあたり、現状にとどまらず、対象者のために看護を追求し続ける姿勢を持ち、創造的な看護実践を行うとともに、多職種と協働できる。 ●対象者を尊重できる看護職の育成に携わり、広い視野で教育的な役割をとることができる。 ●精神科医療の現状および所属施設の理念や部門の目標を理解し、積極的に職場の改革に参画し、看護の質向上のために変革的な行動ができる。
A	【目標】 関係性を 構築する力		**対象者に関心を向け、対象者の視線や表情，雰囲気、態度から相手の思いを察知し、工夫しながら関係性をつくることができる。**	**受容的、支持的な態度でかかわり、対象者から信頼してもらえる関係性をつくることができる。**	**対象者の対人関係能力が高められるよう、看護職自身の抱いた疑問や異和感，感情を意図的に利用することができる。**	**複雑な状況下にある対象者らと、相互にゴールを共有し、協働を意識した関係性を築くことができる。**	**複雑な状況下にある対象者らと、自律に向けた関係性を深めることができる。**
看護実践能力	A1	関係構築	□ 普段のかかわりの場面から、対象者のペースを尊重し、脅かさずに一緒に過ごすことができる。 □ 対象者の訴えを否定せずに聴き、対象者の体験を理解しながら、あるがままを受け入れることができる。	□ 対象者と対 状 とい □ 対象者の ングをはかり	対象者をとりまく人々のために ら、相互に目標を共有し，実 参加を促し、かかわりを続けるこ 象者自身の気持ちや困ってい 強くかかわることができる。 交わし、相互に理解することが		□ 複雑な状況下にある対象者と対象者をとりまく人々との関係形成のプロセスをアセスメントし、対象者と看護職の相互作用によって自律に向けた関係性を築き、かかわりを続けることができる。 □ 対象者の状態をみながら段階的にアプローチし、対象者が自己を理解し、自己決定ができるようにかかわることができる。
	A2	看護倫理	□ 看護職の倫理的行動について理解し、対象者の権利を尊重した看護の必要性を理解できる。	□ 倫理的視点 いて、倫理 る。	しても、それを顕在化し、互いの 話し合い、チームで合意形成す		□ 倫理的問題に対してリーダーシップを発揮して解決に向けた行動ができる。メンバーに対して、倫理的課題解決のための指導・支援ができる。
B	【目標】 ニーズを 把握する力		**対象者の言葉や行動などから日々のニーズを考えることができる。**	**対象者の過去 活上のニーズ**	**々のニーズを、QOLを意識して多**		**医療チームと連携し、対象者および対象者をとりまく人々の真のニーズをとらえることができる。**
看護実践能力	B1	情報収集	□ 対象者の反応や言動を観察し、基本的ニーズにかかわるセルフケア要素の情報を得ることができる。	□ 対象者の残 りごとや辛さ、孤独と付さ 報を得ることができる。	から希望をひき出し、多職種		□ 対象者と対象者をとりまく人々の生活について、多角的に情報を得て、整理し、表面化していない真のニーズに関する情報を意図的に得ることができる。
	B2	価値観や 信条	□ 対象者の趣味や好きなこと、大切にしているものや習慣、気がかりや関心などの情報を得て、対象者の価値観や信条を知る手がかりを得ることができる。	□ 日常のかかわりのなかか 関する思い、将来の希 者の価値観や信条につ			□ 対象者の社会面や精神面の課題が多様で、複雑な状況においても、多職種と協働し、対象者のQOLが高められるように介入することができる。
	B3	アセスメント	□ 対象者の現在のセルフケアレベルを把握し、セルフケア不足が生じた要因について考えることができる。	□ 対象者のセルフケア不 せてアセスメントし、疾病 生活上の留意点や介入			□ 日常生活を営むうえでのセルフケア不足だけでなく健康的な力も見出したうえで、対象者の真のニーズをアセスメントし、先を予測しながら見通しをもって今必要なケアを判断できる。
	B4	精神面の アセスメント	□ 対象者の発言、行動、表情などから、精神症状がどの程度生活に影響しているか、なぜそのような言動になっているのかを考えることができる。 □ 対象者の普段の様子を把握でき、普段と異なる状態があったとき、それに気づいて報告ができる。	□ 必要性を意識して継続 評価に加えて自我機能 □ 対象者の精神症状の悪 スメントすることができる。	護サポート　他科・学生の皆様へ		□ 対象者の回復に影響を与えている精神的な要因をアセスメントし、対象者の意思決定や責任を負う機会をつくるなどの充実した看護を展開できる。
	B5	フィジカル アセスメント	□ 対象者のバイタルサインを正確に測定・判断し、その他の観察やデータに基づき、正常・異常を判断し、報告できる。	□ 自立して基本的なフィジ □ 対象者の観察および検 神科治療に伴う身体的			□ フィジカルアセスメントにより、対象者の身体状態の悪化を予測し、切迫した状況下において優先度を判断し、リーダーとしてメンバーを指導しながら適切に対応できる。 □ 精神的、身体的に重篤な症状があっても、根拠を持って必要な看護ケアを実践できる。
	B6	看護職の 自己洞察・ 自己活用	□ 自分が対象者に対して個人的な感情を抱いたときに、他者に相談できる。 □ 対象者のかかわりや、他者からの指摘・助言を得て、自己の実践を振り返り、できていることとできていないことがわかる。また、できていないことを課題としてとらえることができる。	□ 対象者に対する自分の 得ながら適切な対処が □ 自ら自己の実践を振り返 て、課題を明確にし、次 自己の行動に取り入れ			□ 自己理解のうえで自己への信頼を高め、看護に活かすことができる。 □ 日々の実践のなかで起こる自己や他者の反応を敏感に、客観的に捉えて振り返り、意味づけ・言語化できる。また、意味づけられた実践をより適切な看護に発展させ、自らがロールモデルとなり行動できる。
	B7	記録、 計画立案	□ 精神面・身体面に関して得た情報を整理し、記録できる。 □ 看護過程の基本をふまえて看護計画の立案ができる。	□ 看護の経過のなかで把 まえてアセスメントした内容を記録し、看護計画を立案することができる。	立案することができる。また、情報開示も意識した記録ができる。	計画を立案し、対象者と共有した上で、看護ケア会議に同席することができる。また、情報開示を意識した記録の指導ができる。	□ 対象者のニーズと個別性を踏まえ、精神症状と付き合いながら過ごせるよう対象者と共に看護計画を立案し多職種とも共有できる。また、記録類を監査し指導できる

日精看版ラダーのExcel版（チェックボックス付！）

「会員専用資料館」にアップロードしました。

達成した看護実践能力にチェックを入れて活用できます。

日精看オンライン「日精看会員ログイン」よりアクセスしてください